

RKU Today

2024

学長就任挨拶

気づく・実感する・実現する
一人ひとりの「Realize」を
応援します

流通経済大学 学長 片山直登

03 副学長就任挨拶

04 学部長紹介

05 大学院 研究科長紹介

06 特集

Ryu Tube 放送中！

08 学生ピックアップ

学生アドバイザー

10 開催報告

海の日アートフェス 2024

11 柏高校ニュース

協働と探求に基づく学びの創造

12 後援会報告

14 NEWS & TOPICS

vol.46

表紙イラスト：
石毛尚吾「白鳥」
(NPO法人 グループ彩 生活工房)





子どもの頃の夢は「天文学者」。小学5年生のときに買ってもらった天体望遠鏡で毎日星を眺めていたそう。学生時代に経営工学の面白さに気づき、研究に没頭。朝から夜まで実験とレポート作成に没頭。いそいそ日々を過ごしていたのだとか。

気づく・実感する・実現する
一人ひとりの「Realize」を応援します

流通経済大学学長 片山直登

私が本学に教員として着任したのは、流通情報学部ができたばかりの1996年のこと。その頃はまだ龍ヶ崎キャンパスだけで学部も少なかつたので、今よりも静かな印象がありました。広く自然豊かなキャンパスの中で、学生たちが心静かに学びに没頭できる雰囲気が出ていました。

それから28年の月日が経ち、現在では5学部9学科に。新松戸キャンパスも開校し、たくさんの方で賑わう、活気あるキャンパスへと変貌しました。そのように大学の発展を見届ける中で、私自身もまた、教育者として、研究者として、成長させていただいてきました。そして、この4月より本学の学長として、新たな挑戦の場に立ちましたことを心より誇りに思います。

学長就任と同時に、新たな大学ビジョン「RVV Realize」を掲げました。「Realize」には「気づく」

「実感する」「実現する」といった意味があります。大学は単に学問を学ぶ場ではなく、自分自身を見つめ直し、人としての成長を遂げる絶好の場所でもあります。4年間という時間を有効活用して、勉強、サークル活動、資格取得、ボランティアなど、自分が興味を持ったことはなんでも、主体的に取り組んでみてください。

そのとき、主体的であることがとても大事。自分自身で何をしたいかを考えて、目標を掲げて、行動に移すのです。すると、今まで知らなかった自分の性格や思考に気づいたり、スキルや才能を発見したり、成長を実感したりして、可能性がどんどん広がっていくことを感じるでしょう。また、異なる文化や価値観に触れることで、自分の視野が広がり、柔軟な思考も養われていくことでしょう。

流通経済大学では、社会で役立つ実践的な学びを得る「実学主義」、知識を身につけるだけでなく

く考える力や対話する力も育む「教養教育（リベラルアーツ）」、1年生から4年生まで全員がゼミに所属する「全員ゼミ」を3本柱とした教育を重視しており、「自ら考え、行動する」――「主体性」を育む環境が整っています。

本学では、実学教育を実践するために、企業の第一線で活躍する客員講師などから社会における実践的な学びを得る機会を多く設けており、今後も充実していく予定です。また、現在は1コマあたり90分×15回の授業が基本ですが、近い将来105分×13回の構成に。延長した15分を活用して、グループワークや発表の場など、主体的に授業に参加できる機会を増やしていきたいと考えています。また、事前に動画などで予習したものを授業でアウトプットする「反転学習」といった仕組みも、今後検討しています。

一人ひとりが自己成長を続け、将来の夢や目標に達成できるよう、教員・職員は丸となってサポートいたします。学生のみならずは多様な背景を持つ仲間と共に「Realize」の旅を大いに楽しんでください。

学長のある一日
Daily Schedule

- 8:20 出勤、研究室にて研究活動
- 9:00 学長室へ移動し、執務
- 12:00 昼食
- 13:00 会議
- 17:00 研究室にて研究活動
- 18:40 退勤
- 20:00 帰宅・夕食・家族と団らん



私自身、毎日キャンパスにいますので、気軽に声をかけてください



Profile NAOTO KATAYAMA

[学歴]	1982年 早稲田大学理工学部工業経営学科 卒業
1984年 同大学大学院理工学研究科博士前期課程 修了	
1988年 同大学院理工学研究科博士後期課程 単位取得退学	
2010年 流通経済大学大学院物流情報学専攻 博士(物流情報学)	
[経歴]	1987年 早稲田大学理工学部工業経営学科 助手
1990年 金沢工業大学工学部経営工学科 講師	
1996年 流通経済大学流通情報学部流通情報学科 助教授	
2002年 流通経済大学流通情報学部流通情報学科 教授	
2024年 流通経済大学 学長	

副学長就任挨拶

入試担当副学長
吉村 聡



大学の真価～厳しい環境だからこそ

この度、入試担当副学長を拝命しました。大学経営にとって入試が果たす役割はきわめて大きなものであり、責任の重い職務であると感じています。ここ数年間で大学を取り巻く入試環境は大きく変化しました。少子化により入学者が減少し、それに伴って「大学の二極化」が進行しています。特に、中小規模の大学にとっては、向かい風の中という厳しい入試環境にあるといえます。入試の役割は、まずは定員を確保することですが、こうした時期だからこそ、大学としてどのような教育をし、どのような人材を育成するかを改めて考え、その上で定員確保に取り組むべきと考えます。

教学・ダイバーシティ共創担当副学長
前田 聡



「RKUのなすべきこと」をなすために

このたび教学・ダイバーシティ共創担当副学長を拝命いたしました。よろしく申し上げます。「アフター・コロナ」の今、RKUがなすべきは、建学の理念に照らしつつ、多様なアイデンティティの交わるこの社会の課題に応えるため、教育と研究をさらに充実させることです。当たり前ですが、それこそがRKUで学び、働くすべての構成員（＝学生、教職員）の充実した人生を実現し、社会に貢献する唯一にして最大の方法だと確信しています。私の任務は、教育研究の側面から、全てのRKU構成員が活躍するための環境整備であると心得て、微力を尽くします。

国際交流・学生担当副学長
鈴木麻里子



多様性の時代にあって

本学に着任し、今年度で17年目となります。振り返れば多くの学生の指導にあたってきました。授業はもちろん、日々の学生生活の悩み事も相談に乗りました。卒業後の進路、アルバイト、友人関係、そして恋愛。大学生は初めて大人として扱われ、勉学だけではなく社会全体から影響を受けて大きく成長していく時期です。失敗することも後悔することたくさんあります。多様性の時代にあって、ますます人間関係で悩むことも多くなるでしょう。学生および国際交流担当副学長として、学生諸君の日々の生活を全力で支えることをお約束します。



経済学研究科

板谷和也 研究科長

広い視野で物事を深く学ぶ

文系の学部卒業生は、大学院にはあまり進学しません。これは、日本では文系の大学院修了者の就職の条件が、学部卒業生と比べて必ずしも高くないためです。しかし世界の趨勢はそうではありません。役所や企業で昇進するために学歴が必要、ということが多くなっています。日本も将来的には必ずそうなるでしょう。

経済学・経営学は、社会で求められる知識や考え方を多く提供できる学問分野です。大学院に入り広い視野で物事を深く学ぶと、人間的に大きく成長できます。経済学研究科では、学びを深めたいと思うみなさんの進学をお待ちしています。



物流情報学研究科

林 克彦 研究科長

ロジスティクス研究を目指すみなさんへ

物流情報学研究科では、調達から生産、消費にいたるサプライチェーンにおけるモノ及び情報の一連の流れを効果的に管理するロジスティクスの研究を行っています。ロジスティクス関連分野の専門的知識を有する高度職業人の養成、創造性豊かな研究者の育成を目標としています。現代のロジスティクスは、労働力不足や地球環境問題等への対応に迫られ、情報通信技術の活用や企業の枠を超えた共同化等を進めていく必要があります。この分野を研究したい学生、社会人、留学生のみなさんとともに、課題解決に貢献できる研究に取り組んでいきます。



スポーツ健康科学研究科

高松潤二 研究科長

体育・スポーツ・健康の発展を担う実践家を育成する

2010年に設置されたスポーツ健康科学研究科は、競技／生涯スポーツの振興・推進に関わる「プロモーションリーダー」を育成することを目的に運営されています。体育・スポーツ・健康領域は私たちの生活に活力を与えるだけでなく、多くの気づきをもたらします。この分野で指導的立場になるには、専門的な知識・技能はもとより、幅広い教養や豊かな人間性を兼ね備え、今日的な課題を発見・解決しなければなりません。私たち教員は、これからそのような高度職業人を育成・輩出していきたいと思えます。

流通経済大学 大学院
研究科長紹介

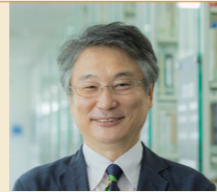
社会学研究科

中村美枝子
研究科長

より充実した研究活動の場へ

2024年6月25日、院生7名と教員10数名が集まりました。修士1年生は自己紹介、修士2年生は修士論文、博士2年生は活動内容をプレゼンしました。聴き手は、社会学・観光学・地理学・福祉学・心理学等を専門とする教員です。

異分野の聴き手にわかるよう簡潔にプレゼンするというミッションで、和やかな中にもピリッとする場面があり、プレゼンを介して濃密なやりとりができました。コロナ禍を経て対面での活動が活発になっています。より充実した研究活動の場づくりを、研究科メンバー全員で目指しているところです。



法学研究科

西島良尚 研究科長

今こそ「法学」を学ぶべきとき

「法学」の「法」とは、国家社会の基本的仕組みであり、国家権力の濫用を防ぎ、その適正な行使のためのルールです。そして、「法」は100年や200年で出来上がったものではなく、2000年以上の歴史を経ています。「法」を学ぶことにより、私たちがどのような時代のどのような社会に生きているかを知ることができます。

憲法をはじめとする「法」を知り、私たちがそれらをちゃんと使いこなせているかを知ることが、社会を少しでもより良くするために、そして個人がより良く生きるために不可欠なことです。今こそ「法学」を学ぶべきときです。



経済学部

吉村 聡 学部長

現代社会を生き抜く実践力を

少子高齢化、グローバル化、価値観の多様化など、私たちが生活する社会は大きく変化しています。そして、こうした変化がここ数年のわが国経済をめぐる主たる問題ともなっています。

経済学部では、社会やビジネスの世界で起きている様々な問題を、経済・経営の視点で捉え、それに対する解決策を見出します。経済学部でのこうした学びにより、現実の世界で起きている問題に対していかに対処するかという力、すなわち世の中を生き抜く力を身につけることができます。経済学部で学んで、現代社会を生き抜く実践力を身につけましょう。



流通情報学部

矢野裕児 学部長

リアル×バーチャルで新しい社会の姿を

流通情報学部は、日本で唯一といってよい「ロジスティクス」を柱とした学部です。私たちの生活、ビジネスを支える流通・物流（サプライチェーン、マーケティング）、情報（コンピュータプログラミング、データサイエンス、AI）を、総合的に学ぶことができるのが特徴です。本学部を表す重要なキーワードが、『流通・物流×情報』です。リアルとバーチャルが連動し、融合する新しい社会の姿（ソサエティ5.0）を目指し、実現していこうというものです。新しい社会、ビジネスをデザインする学部として、流通情報学部をさらに発展させます。



スポーツ健康科学部

大槻 毅 学部長

スポーツを通じて人生、社会を豊かに

スポーツ健康科学は、スポーツを通じて一人ひとりの人生を、そして、社会全体を豊かにする実践的な学問です。学生がその魅力を味わい尽くし、学生生活を充実させるためには、教員が自らの研究や社会活動等に生き生きと取り組み、スポーツ健康科学の面白さを体験することが必要です。スポーツ健康科学部には、それができる情熱と能力を持ち合わせた教員が揃っています。学生と教員がそれぞれの思いに沿ってスポーツ健康科学を楽しみ、お互いに刺激し合うことで学部が発展することを目指して、教育・研究環境の整備に努めます。

流通経済大学
学部長紹介

共創社会学部

高口 央 学部長

—Realize— 共創社会学部

学部開設35周年の節目である2024年4月、社会学部から共創社会学部へと、また、社会学部から地域人間科学科へと名称変更をしました。国際文化ツーリズム学科は、2023年4月に国際観光学科から名称を変更。学部開設以来、拡充してきた教育内容を反映する学部・学科名への変更です。新たなスタートをきった両学科は、在学生と共に、今後も地域社会と連携した学びに邁進していきます。学部開設35周年、国際文化ツーリズム学科開設30周年を記念し、両学科



の教員が寄稿した『大学的ちばらきガイド』を出版しました。それぞれの研究者が多様な観点から地域を紐解いています。ぜひ手に取っていただければ。



法学部

周 作彩 学部長

法的思考力を身につけ自分の未来を切り拓こう

法学部は2001年に創設された比較的新しい学部ですが、法学は最も伝統ある古い学問です。それは法がなければ社会が成り立たないからです。法学部は法律学科と自治行政学科から構成されています。法律学科では法の知識や法的思考力を身につけ、それを社会のあらゆる場面に活かすことができるようになっています。自治行政学科では法的思考力や政策形成力をもとに行政の場で活躍する人材、あるいは民間から官民協働で地域を支える人材を育成しています。学部長として、社会の各方面に巣立っていくみなさんの姿を見ること以上に嬉しいことはありません。

密着!

番組制作のウラ側

番組制作のステップは、大きく分けて「企画・構成」「ロケ・撮影」「編集」「MA」の4つ。およそ2か月をかけ、1本の番組をつくり上げています。

粗編集



8月号 青春祭パートの粗編集は学生クルーの渡辺さんが全て担当!

本編集



全体から必要な箇所を切り出す「粗編集」の後、テロップやエフェクトを入れる「本編集」へ



取材対象となる部活動と選手をピックアップし、番組構成を打ち合わせ

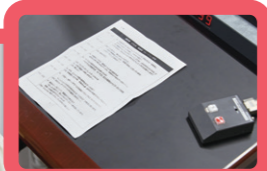


MA(仕上げ)

編集

ロケ・撮影

企画・構成



音を調整し、ナレーションやBGMを入れたら完成!



2~3日にわたって密着取材。学生同士だからこそ、「リアル流経」の良い素材が撮れることも

自分から一歩踏み出す勇気を持った



スポーツ健康科学部2年 小林瑞稀さん

将来はスポーツの魅力発信する仕事に就きたいと思っています。Ryu Tubeはまさに大学でやりたかったことで、クルー募集の告知に即、手を挙げました。良い映像を撮るには、撮影技術はもちろん、取材対象とのコミュニケーションが何より大事だというのが大きな気づきです。自分から一歩踏み出す勇気を持てるようになりました。

将来は「魅力を伝える仕事」に



スポーツ健康科学部3年 野村俊介さん

大学の広報活動を通じて取材の経験はあるものの、緊張で硬くなりがち。どう撮影すれば部活動の魅力が伝えられるか、試行錯誤しながら撮影に臨んでいます。現場ではプロのインタビュー術に感動。「自分もあんなふうに取り材できるようになりたい」と目標になりました。学びを活かして、将来は魅力を伝える職業に就きたいです。

得意のPC技能を活かし編集に挑戦



流通情報学部2年 渡辺稀浩さん

パソコンへの興味が高じて、高校時代から映像コンテンツをつくっています。8月号では青春祭の撮影から編集まで携わりましたが、1時間半の素材を5分強にまとめるのはとても大変。今後は、テーマがより伝わる映像の作り方を模索していきたいです。ナレーションやテロップの入れ方一つで伝わるニュアンスが変わることも新たな発見でした。

動画制作クルー募集中!

学部/経験不問! 2024年4月1日現在、本学に所属している学生であれば誰でも参加可能! プロカメラマンやディレクター陣と一緒に活動できる貴重な機会です。映像制作の知識を身につけたい方、メディア業界に興味がある方、流経大の魅力発信に興味がある方はぜひエントリーを!



放送中!

6月から流通経済大学の魅力を発信する15分番組「Ryu Tube」の放送・配信が始まりました! 番組の内容や制作の裏側についてご紹介します!



全制作工程に学生が携わる、ユニークな学びの場

流通経済大学の特色であるスポーツ活動や地域連携活動など、その「魅力」を紹介する「Ryu Tube」流通経済大学スポーツチャンネル。2024年度の新たなビジョンである Realize RKU Visionのもと、「学生が主体的に考え目標を達成する場」の一つとして、大手ケーブルテレビJ・COMとJ SPORTSの協力でも始められました。

その制作現場では、企画・取材・撮影、編集などすべての工程で学生クルーが参加。プロの指導を仰ぎながら番組づくりに挑戦しています。これまでに放送された4本では運動部の密着レポートや学園祭、海の日アートフェスの取材を行い、学生たちの素顔や準備・練習に励む様子を捉えました。「大人がカメラを持って現場に入ると、取材対象の学生はどうしても身構えてしまう。学生同士だからこそ撮れる素顔があって、それが番組のクオリティにも良い影響をもたらすと考えています」と話してくれたのはJ・COMの越川雅弘さん。長年スポーツメディア

アに携わるプロも、学生らしさのある「ゴツゴツした」映像を楽しみにしているそう。学生ならではの発想と、プロフェッショナルだからこそそのノウハウが詰まった「Ryu Tube」は、スポーツや地域連携など流経大の熱がダイレクトに伝わるユニークな番組です。ぜひご視聴ください!

「Ryu Tube - 流通経済大学スポーツチャンネル -」

- 毎週日曜午後12時30分より「J・COMチャンネル」(地デジ:11ch)千葉県および茨城県内のJ・COMサービスエリアで放送(毎月第1週に更新)
- 流通経済大学公式YouTubeチャンネルにて全話配信



INFORMATION

- これまでの放送
- 6月号 チアリーディング部GLITTERS / 目標はプロ選手! 男子ラグビー部新入部員の奮闘
 - 7月号 ユニークな経歴の女子サッカー部新入生 / 秋季リーグ優勝狙う硬式野球部
 - 8月号 美しく舞う「二刀流」の団体操縦 / 新松戸学園祭「青春祭」に密着
 - 9月号 尊い命を守る! ライフセービング部 / 地域の方と一緒に! 海の日アートフェス

OPEN CAMPUS

流通経済大学オープンキャンパス

受験生に、流通経済大学をより深く知ってもらうためのイベント。毎年3月から9月頃まで両キャンパスで実施され、夏休み期間中の一日の来場者は総計1,000人規模となる。学科の学びを疑似体験できるミニ授業やキャンパスツアー、各種相談コーナーなどを主軸に、今年にはミニバンジー体験などの目玉コンテンツも企画された。マスコットキャラクターは学アドの学生がデザインした「からふりゅう」。



スポーツ健康科学部 2年
竹本歩莉さん
AYURI TAKEMOTO
龍ヶ崎キャンパス 統括



共創社会学部 3年
染谷 紳さん
SHIN SOMEYA
新松戸キャンパス 統括

PICK UP STUDENTS

学生ピックアップ

vol.07 学生アドバイザー
(新松戸／龍ヶ崎)

オープンキャンパスで来場者の方のアテンドなどを行う、真っ赤なポロシャツがユニフォームの「学生アドバイザー」、通称「学アド」。高校生や親御さんへ大学の魅力を「学生目線」でご案内しています。今回はそれぞれのキャンパスで「統括」を務める二人にやりがいや目標、学生アドバイザーという仕事の面白さについて話を聴きました。

頼れる先輩や仲間の存在が、自分にも大きな成長をもたらした

現在140人いる新松戸キャンパスの学生アドバイザーを取りまとめる染谷紳さん。キャンパスを巡る「ツアー」、来場者の相談を受ける「トーク」など複数あるポジションの人員配置を毎回行い、オープンキャンパス運営の一翼を担っています。学アドになったきっかけは、1年生のとき、前統括の須藤あすかさんに勧誘されたことから。その後も、てきぱきと仕事をやる須藤さんに感化され、次期統括に指名されたときは二つ返事で引き受けました。



「須藤先輩を目指すのではなく、自分なりのやり方でやってみようと決意しました。毎年、統括によって組織の「色」が出ると思っていて、上の代は須藤先輩が大黒柱となって引つ張っていき感じました。逆に僕は、相談したり意見を聞いたりして、他のメンバーを積極的に頼るようにしています」

率先して明るく元気に振る舞い、メンバー全体の士気を高めてきた染谷さん。その甲斐あって全員が同じ方向に向かって動けるようになってきました。引つ込み思案な学生アドバイザーを卒業。次代の統括への引継ぎが始まっています。



で活動しているメンバーが多いです。そういった意志を絶やさず、大学の魅力を伝えてほしいですね」

学生アドバイザーの活動に参加したおかげで、困った人がいたら自分から声をかける習慣がついたという染谷さん。引つ込み思案だった高校時代の自身からは想像できないくらい、積極性が磨かれたそう。また、学アドの交友関係を通じて将来の目標も生まれました。

「メンバーの影響で始めたアミューズメントパークのアルバイトがとても楽しくて、人と接することが自分には向いているんだなと気づきました。将来も人を楽しませる仕事に就きたいと考えています」

学生アドバイザーとしての経験が、「教員」の夢につながっている

高校の体育教員を目指し、スポーツコミュニケーション学科へ入学した竹本歩莉さん。学生アドバイザーに興味を持ったきっかけは、高校生のときに参加した流経大のオープンキャンパスでした。

「大学の入り口から覚えているんです。キャンパスへつづく坂道を登ったところで、学アドの先輩が明るく迎えてくれました。進路相談でも、自分の体験を交えて優しく話してくれて、憧れを抱きました」

そんな竹本さんが学生アドバイザーになるのはごく自然な成り行きでした。友達に誘われて1年生の夏頃に参加。2年生で統括に抜擢され、今年、全8回開催されるオープンキャンパスでは、およそ

40〜50名のメンバーを取りまとめています。

「統括ではありませんが、メンバー一人ひとりが能動的に動いてくれるので、安心して任せられます。一番頭を悩ませるのは人員配置です。特に龍ヶ崎キャンパスはスポーツ関係の独特な施設が多く、さらにキャンパスも広いため案内が難しく、ツアーガイド役には苦手意識があるメンバーも多いんです。なるべく希望を聞いて配置するようにしています。人数が揃わないときには悩みますね」

しかし、学生アドバイザーの仕事には、そんな悩みを凌駕するほどの大きなやりがいも感じているそう。オープンキャンパスを訪れる学生やその保護者はもちろん、ほかの学部学科の学生や教員と関わる機会があり、コミュニケーション能力の向上につながっていると竹本さんは言います。

「高校生や親御さんとの対話を通して、自分第一ではなく、相手に寄り添い、相手の目線で考えるこ



との大切さを学びました。教員という将来の目標につながる経験ができていると実感しています」

竹本さんが目指すのは、スポーツの楽しさを伝えられる教員。竹本さん自身が高校の体育で苦手を球技に苦戦していたとき、経験者の手助けで克服し、「できるよにならば楽しい」という感情を知ったそう。

「体育が嫌いな子ももちろんいると思いますが、一つでも多くのことができるようになれば楽しくなります。それを伝えられる教師になりたいです」

2年生で抜擢されたために、学生アドバイザー卒業まであと一年ある竹本さん。今後は、自分が高校生のときに受けたような明るい対応を目指し、将来の夢に向けて相手に寄り添うコミュニケーション力を磨いていきたいと熱く語っていました。

RKU KASHIWA HIGH SCHOOL NEWS



協働と探究に基づく学びの創造



文：柴田一浩 校長

今年、付属柏高校は創立40年目を、中学は2年目を迎えました。高校は366名の新入生を迎え全校生徒1,152名、中学は新入生150名を迎え全校生徒307名、中高合わせて1,459名でスタートしました。

本校では、「協働と探究に基づく学びの創造」を研究テーマに掲げ、授業改善を図っています。昨年度から、講師に麻布教育ラボ所長の村瀬公胤先生をお迎えし、年3回、授業研究会を開催し、指導方法等について研修をしています。生徒同士が「見合い、聴き合い、語り合う」、いわゆる「学び合い」を通して様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会のつくり手となることのできる人材を育成すること

などを重点目標としています。また、中学校開校に併せて建設した図書・メディア棟での図書館教育はもちろんのこと、理科室での実験・実習やバーチャル留学ルームやイングリッシュラウンジでの外国語の授業、そして、大学教員を招いての総合的な探究の時間の授業を通して、「未来を創造する叡智を養い、自己実現を図ることでグローバルリーダーを育成する」という教育目標を達成するための具現化を図っています。



◀ 詳しくは、付属柏高校の公式HPに掲載しています。



授業研究会(中学理科)



授業研究会(高校国語)

2024年度前期「全国大会出場」部活動紹介

男子ラグビー部

長野県上田市で7月に開催された「第11回全国高校7人制ラグビーフットボール大会」に10大会連続で出場しました。



全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会

競技かるた部

岐阜県で8月に開催された「第48回全国高等学校総合文化祭」小倉百人一首かるた部門に、町田志さんが出場しました。



放送部

7月の「第71回NHK杯全国高校放送コンテスト」全国大会の、ラジオドキュメント部門、創作ラジオドラマ部門及び研究発表部門に出場し、研究発表部門では代表校2校に選出されNHKホールで発表しました。本校では初めてのステージ発表をすることができました。



NHK杯 全国高校放送コンテスト

2024.7.21 @SHINMATSUDO CAMPUS

海の日 アートフェス

~であう・つながる・一緒につくる~

流経大生や地域のアーティストらが繰り広げた熱いパフォーマンス

この日のメインは、屋外の大階段前に設けられた「 commons ステージ」。学内の部活やゼミ生、地域のアーティストや子どもたちがパフォーマンスを披露しました。

ダンス部、そして松戸を拠点に活動するプロタツダンサーちはるさんと共創社会学部3年の力石朝日さんによるヒューマンピートボックスの独創的なコラボレーションなど、多彩なパフォーマンスが会場を沸かせました。

さらに、パトントワリングチーム「Nanalis」による元気いっぱい可愛いらしい演技、灼熱の太陽が降り注いだ7月21日(日)、多彩な「アート=表現」を通じて「であう・つながる・一緒につくる」空間を創出することをコンセプトに「海の日アートフェス」が開催されました。2022年にスタートしたこのイベントは、年々規模が拡大し、認知度もアップ。今年度は約1,400人の来場者を集めました。また、イベントの企画・演出・運営は流経大の学生たちが中心となり、総勢170名以上が参加しました。



灼熱の太陽が降り注いだ7月21日(日)、多彩な「アート=表現」を通じて「であう・つながる・一緒につくる」空間を創出することをコンセプトに「海の日アートフェス」が開催されました。2022年にスタートしたこのイベントは、年々規模が拡大し、認知度もアップ。今年度は約1,400人の来場者を集めました。また、イベントの企画・演出・運営は流経大の学生たちが中心となり、総勢170名以上が参加しました。



GLITTERSとDream Marinersのチアコロポ、そして混声合唱団「CORO KOKO」の透き通るような歌声など、地元で活躍するアーティストやチームによるステージも。真夏日の炎天下、出演者たちが汗を流しながらも全力で演目を繰り広げると、来場者からは歓声と拍手が沸き起こり、笑顔と熱気に包まれた空間となりました。

であうステージ&ワークショップetc.



一方、キャンパスの1階ロビーや共有スペースには、37におよぶ展示やワークショップ、マルシェなどが開催。小谷ゼミによる「バスケットボールシューティング体験」や、元NHKアナウンサーの三宅民夫さんが講師を務める「絵本読み聞かせワークショップ」、茶道部による本格的な「お茶と茶菓子体験」など、子どもから大人、家族で楽しめる体験型の展示が盛りだくさん。さらに、ベ

国や地域、世代を越えた、多様な「アート=表現」が集結



トナムの留学生による「灯笼づくり体験」や、ルワンダの農民支援のため松戸市在住の方が開発したバナナペーパーを使った「ランプシェードづくり体験」、仙台育英高校インターアクト部によるウクライナ支援活動など、世界とつながる出展も多く、まさに、国や地域、世代を越えた多様な「アート=表現」の場に、であう・つながる・一緒につくる「コンセプト通り」のイベントとなりました。

開催報告はこちら▼



2024年度収支予算書

自 2024年4月1日 至 2025年3月31日

(金額単位：円)

項目	予算	摘要
前年度からの繰越	50,931,481	
前渡金回収	0	
収入の部		
当年度収入		
入会金	6,580,000	入学者1,316名 (外国人留学生・編入学生含)
会費収入	60,270,000	
計	66,850,000	
収入合計(A)	117,781,481	
支出の部		
運営活動費		
通信費	1,000,000	後援会資料・保証人ポータル通知ハガキ郵送料等
印刷費	1,000,000	後援会資料印刷、保証人ポータル通知ハガキ作成
会議費	200,000	
事務費	5,000,000	
保証人相談会費	1,100,000	案内状・配付資料作成、動画配信・録画費用
教科書販売郵送料	450,000	教科書販売郵送料
雑費	200,000	振込手数料他
小計	8,950,000	
後援費		
諸行事後援費	20,000,000	卒業記念品、学生イベント等の補助
小計	20,000,000	
就職活動費		
就職指導費	6,391,000	合同企業説明会費用、学生・保証人配付資料作成
小計	6,391,000	
課外活動振興費		
課外活動補助費	9,000,000	スポーツ傷害保険料、課外活動備品等
大学祭・体育祭補助費	1,600,000	大学祭への援助
クラブ顧問補助費	22,000,000	遠征、合宿等の旅費等の補助
小計	32,600,000	
環境整備寄付金	2,000,000	
前渡金支出	0	
支出合計(B)	69,941,000	
翌年度へ繰越(A-B)	47,840,481	

2024年後援会役員

2024年度の役員が決定しました。

会 長	齊藤 和海
副会長	佐久間 行雄
副会長	関口 朋和
監 事	野村 浩一

2024年度事業計画

2024年度は、本後援会の目的(会則第3条)及び事業(第5条)にそって、次に掲げる事業を推進していくものとする。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

保証人相談会の実施に伴う諸費用の援助

2 就職活動への援助

求人開拓・就職キャリア指導に対する援助

3 課外活動に対する援助

- 文化系・運動系クラブに対する援助
- 課外活動関係設備を充実するための援助
- 課外活動傷害保険料の全額負担

4 諸行事への援助

- 学生が開催する大学祭等の行事に対する援助
- 卒業生に対する卒業記念品の贈呈・惜別会開催費の援助等

5 後援会奨学金の貸与

家計急変等により学業継続が困難となった学生に大学と協力し、後援会奨学金を貸与

6 その他

環境整備への援助 以上

2023年度収支決算書

自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

(金額単位：円)

項目	予算(a)	実績(b)	増減(a-b)	備考
前年度からの繰越	39,008,370	39,008,370	0	
前渡金回収		0	0	
収入の部				
当年度収入				
入会金	6,305,000	6,225,000	80,000	入学者1,258名 (外国人留学生・編入学生含)
会費収入	60,738,000	60,237,500	500,500	
利息収入	0	776	△776	預金利息
計	67,043,000	66,463,276	579,724	
収入合計(A)	106,051,370	105,471,646	579,724	
支出の部				
運営活動費				
通信費	1,000,000	72,915	927,085	保証人ポータル通知ハガキ郵送料
印刷費	1,000,000	290,295	709,705	保証人ポータル通知ハガキ印刷費
会議費	200,000	0	200,000	
事務費	5,000,000	4,910,000	90,000	
保証人相談会費	1,100,000	148,500	951,500	
雑費	150,000	636,625	△486,625	教科書販売郵送料、振込手数料他
小計	8,450,000	6,058,335	2,391,665	
後援費				
諸行事後援費	10,000,000	14,016,744	△4,016,744	卒業記念品代、惜別会代、防犯カメラ代等
小計	10,000,000	14,016,744	△4,016,744	
就職活動費				
求人開拓費	20,000	0	20,000	
就職指導費	9,000,000	7,135,005	1,864,995	学内合同企業説明会費用、 学生・保証人用就職ガイド作成費 等
小計	9,020,000	7,135,005	1,884,995	
課外活動振興費				
課外活動補助費	9,000,000	2,326,350	6,673,650	スポーツ傷害保険料、課外活動備品購入
大学祭・体育祭補助費	1,600,000	1,600,000	0	
クラブ顧問補助費	22,000,000	21,403,731	596,269	遠征、合宿等の旅費等の補助
小計	32,600,000	25,330,081	7,269,919	
環境整備寄付金	2,000,000	2,000,000	0	
前渡金支出			0	
支出合計(B)	62,070,000	54,540,165	7,529,835	
翌年度へ繰越(A-B)	43,981,370	50,931,481	△6,950,111	

財産目録 (2024年3月31日 現在)

(金額単位：円)

項目	金額	摘要
(一般資金)		
現金	248,494	手許残高
預金(常陽銀行 竜崎支店)	50,682,987	期末残高
小計	50,931,481	
(育英資金)		
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	15,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	35,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行竜崎支店)	5,000,000	育英基金果実
普通預金 奨学金口(常陽銀行竜崎支店)	5,644,569	育英基金果実
育英基金貸付金	1,146,000	3名
小計	91,790,569	
合計	142,722,050	
負債の部	0	
差引正味財産	142,722,050	

監査報告書

流通経済大学後援会会則第10条第3項の規定により、2023年度流通経済大学後援会収支決算について諸帳簿を監査した結果、その内容についてはいずれも正当なもの認め、第13条の規定により報告いたします。

2024年3月27日 監事 野村 浩一
会長 佐久間 行雄

後援会報告

本学在学生の父母で構成される後援会は、大学と各家庭との連携を深め、本学の発展・向上を図るために各種事業を行っています。

2023年度事業報告

2023年度の事業計画にもとづいて、次のとおり後援会の事業を実施した。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

保証人相談会を2日間にわたり、対面とオンラインを併用して実施した。学長挨拶、副学長による大学の近況報告及び教務・就職の説明に関しては、後日保証人Ringにて配信を行った。

2 就職活動への援助

後援会発足以来の重点施策の一つである大学の就職キャリア指導に全面的に協力し、学生用・保証人用就職ガイド(冊子)の作成、エントリーシート攻略テストの受験料、学内合同企業説明会(オンライン)の運営費用を負担した。

3 課外活動等に対する援助

- 大学の課外活動振興が円滑に推進できるよう、文化系・運動系クラブの試合遠征や合宿等の費用を援助した。
- 課外活動傷害保険料を全額負担した。

4 諸行事への援助

- 卒業生に対し卒業記念品を贈呈し、惜別会開催の費用を援助した。
- 防犯カメラの整備費用を負担した。

5 その他

- 環境整備への援助をした。 以上




最新TOPICSは大学公式HPで随時更新中!
各記事のQRコードからも詳細をご覧ください。

'245~7月 「教学カフェ」開催してます!

学生に多様な学びを提供することを目的に、本学教育学習支援センターが実施する「教学カフェ」。今回はレポート作成に焦点を置いたミニ講座を3回にわたり開催、具体性・実用性の高い内容が参加学生から好評を得ました。

- 第1回「授業課題の種類と書き方のコツ」
- 第2回「ネット検索のテクニック」
- 第3回「レポート作成のための「Booster」養成講座」



'242/27 2023年度ベストティーチャー賞

毎年、学生がアンケートを行って選出する「ベストティーチャー賞」。2023年度は「自分が理想とする授業（理想に近い授業）を行っている教員」を学部ごとに集計し、最優秀から3位まで計15人の教員が表彰されました。




'246/1 スポーツコンディショニングキャンプ

高校生アスリートの競技力向上とトレーナー技能の普及を目指す「高校生スポーツコンディショニングキャンプ」を今年も龍ヶ崎で開催。地域の高校生など47人が参加し、アスレティックトレーナーから実践的な指導を受けるなど熱気に満ちたイベントとなりました。



'244/15 矢野教授が「クローズアップ現代」に出演

2024年4月からトラックドライバーの時間外労働の上限規制が適用され、「物流の2024年問題」が一部顕在化する中、本学流通情報学部矢野裕見教授がNHK「クローズアップ現代」に生出演し、スタジオで解説しました。



'246/15 経済学部卒業生座談会

「学ぶ・作る・売る〜トップで活躍する卒業生が語る!」と題して、各界で活躍する経済学部OBを招いて座談会を開催。東洋鍛工社長の豊さん、ドコモショップ店長の吉岡さんから流経大での「学び」や「縁」、現在のチャレンジなど示唆に富む話をうかがい、参加した高校生や地域の方からは拍手が沸き起こりました。



'244/17 我孫子警察署から感謝状

スポーツ健康科学部3年の土屋英慈さんに千葉県我孫子警察署から感謝状が贈られました。「常磐線の車内で発生した不同意わいせつ被疑事件について、機転を利かせた行動により被疑者の検挙に寄与した」として、その功労が称えられました。



'246/22-23 第18回青春祭〜青春の色彩〜

「青春の色彩」をテーマにした新松戸の学園祭「青春祭」に2日間合わせて約4,000人の来場者がありました。今回初の試みとして「声優トークショー」を開催、また毎年恒例の「お笑いライブ」や部活・サークル・ゼミが出演する各種模擬店やブースは大賑わいで、キャンパスは近年最高の盛り上がり! たくさんの笑顔が溢れる空間となりました。



'244/28 RKUプレイセンター×まんぷく小屋

RKU常盤平団地コモンズステーションにて、本学ダイバーシティ共創センターと子ども食堂まんぷく小屋とのコラボ企画を実施。「遊び・学び・食べる・歯を磨く」という乳幼児・学童期の発達・成長に大切なことを、地域の親子連れなど30人以上が一緒に体験しました。



'246/28 日本留学AWARDS 2年連続受賞

「日本語学校の教職員が留学生に勧めたい進学先」を選ぶ「日本留学AWARDS」に、流経大が2年連続で入賞を果たしました。日本語学校との連携や、学習面・就職面の留学生へのサポート、教育内容が評価されての受賞です。

'245/9~12 女子ハンマー投げで表彰台を独占

東京・国立競技場で行われた「第103回関東学生陸上競技対校選手権大会」にて、女子ハンマー投げに出場した健康科学部の学生3名が表彰台を独占しました。

- 1位 コンボン・ミンガモンさん
- 2位 大沢柚月さん
- 3位 押部唯愛さん



'2312/2 学生発! つないで・カタめて Shake RUN!

「マーケティング&ビジネス特別講座」の集大成として、学生主体で企画・運営を行うランニングイベントを前年に続き開催。4歳から60代まで150人の地域の方が参加し、「走りながらバターはつくれるのか」という学生発案のユニークな催しなどを楽しみました。このイベントをはじめとした本学の「コモンズ活動」について、朝日新聞GLOBE+に掲載されています。



'2311/1 創立60周年へ〜RKU未来会議

'25年の創立60周年に向けて、「RKU未来会議〜キーワードは”コモンズ”にあり〜」を新松戸で開催。新ロゴを発表するとともに、元バレーボール日本代表益子直美さん、東京農大福岡孝則准教授を招いて、共創社会学部龍崎孝教授と「コモンズ活動が地域にもたらす明るい未来とは?」をテーマにトークセッションを実施しました。



'2312/9 スポーツ庁の実証事業に協力

スポーツ庁による「誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業」に協力し、流経大付属柏高校で地域の小学生を対象にイベントを開催。スポーツ健康科学部小谷究准教授が開発した鬼ごっこボール遊びを掛け合わせたプログラムなどを行い、子どもたちは広い校庭や体育館を自由に駆け回って楽しんでいました。



'2311/5 第58回つくばね祭「再輝」〜青春を再び〜

龍ヶ崎の学園祭「つくばね祭」は、4年ぶりに音楽ライブや飲食模擬店が復活し、2,000人を超える来場者で大盛況! 同日、サッカー場では明治大学との試合も行われていて、キャンパス全体が熱気に包まれる中、ファイナーレでは1,100発の花火が打ち上げられ、龍ヶ崎の夜空を彩りました。



'242/6 全学科一斉FD研修会

「変わる制度と責任」をテーマに、2023年度第2回全学科一斉FD研修会を開催。埼玉大学谷津修一准教授は「合理的配慮の義務化」について、また本学片山直登学長は「基幹教員制度の導入」について解説しました。その後の分科会では、各議題について議論を深めました。


'2311/23 発達障がい児のためのデイキャンプ

龍ヶ崎市近隣に住む発達障がい児と保護者を対象に、自由な発想で身体を動かすデイキャンプを実施しました。埼玉大学谷津修一准教授による講演会は、保護者同士がつながるきっかけにも。「子どものいいところ、個性を再発見できた」と好評を博しました。



'242・3月 知的障がい者チアリーディング教室

NPO法人クラブ・ドラゴンズと連携し、流経大OGの指導のもと、新松戸で知的障がい児を対象にしたチアリーディング体験会を2回にわたり開催しました。4月には、知的障がいのある子どもたちによるチアリーディングチーム「Dream Mariners」が結成され、青春祭などのイベントに出演しています。



'2311/26 “アート”でハジけた! 「であう広場」

「であうアート展」期間中のスペシャルイベントとして「であう広場〜語る・食べる・体験する〜」を新松戸で開催。新体操、ダンス、吹奏楽、落語などのパフォーマンスや、アート作品が溢れる空間で、約600人が年代や立場を越えて交流を深めました。



新任教員紹介

2024年度に新たに赴任した教員を紹介します。

小平 明

経済学部准教授

[担当科目] ブランド論

●学歴

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科修士課程修了
立教大学大学院ビジネスデザイン研究科博士後期課程(在学中)

●学位

修士(経営管理学)立教大学

●職歴

株式会社高島屋勤務を経て現在、
帝京大学短期大学非常勤講師
個人事業主

中溝 一仁

経済学部准教授

[担当科目] 事業創造論

●学歴

立教大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士
後期課程単位取得退学

●学位

修士(社会学)立教大学

●職歴

立教大学兼任講師を経て現在、東京経営短期大学准教授
有限会社アクスエープラン代表取締役

加藤 里紗

経済学部准教授

[担当科目] 環境経済論

●学歴

名古屋大学大学院経済学研究科博士
前期課程社会経済システム専攻修了
名古屋大学大学院経済学研究科博士
後期課程社会経済システム専攻修了

●学位

修士(経済学)名古屋大学
博士(経済学)名古屋大学

●職歴

佐久間特殊鋼株式会社、中部大学ほか非常勤講師、
名古屋大学大学院経済学研究科助教を経て現在、
金沢学院大学経済学部講師

田中 薫

経済学部准教授

[担当科目] 会計学(財務会計分野)

●学歴

慶応義塾大学大学院商学研究科経営学・
会計学専攻修士課程修了
成蹊大学大学院経営学研究科経営学専攻
博士前期課程経済・マネジメントコース修了
中央大学大学院商学研究科商学専攻博士
後期課程単位取得満期退学

●学位

修士(商学)慶応義塾大学
修士(経営学)成蹊大学

●職歴

高田短期大学オフィス情報学科助教を経て現在、
常葉大学経営学部経営学科講師

大島 弘明

流通情報学部教授

[担当科目] 物流関連分野

●学歴

日本大学 理工学部建築学科卒業

●学位

学士

●職歴

株式会社日通総合研究所経済研究部を経て現在、
株式会社NX総合研究所常務取締役

唐崎 卓也

法学部教授

[担当科目] 地域政策論

●学歴

千葉大学大学院園芸学研究科造園学専攻修士課程修了
千葉大学大学院園芸学研究科環境造園学専攻博士
後期課程修了

●学位

修士(農学)千葉大学
博士(学術)千葉大学

●職歴

農林水産省農業工学研究所農村整備部等を経て現在、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

坂本 麻美

教育学習支援センター専任所員(講師)

●学歴

早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程修了

●学位

修士(日本語教育学)早稲田大学

●職歴

早稲田大学日本語教育研究センター任期付インストラクターなど

藤田 駿介

教育学習支援センター専任所員(講師)

●学歴

筑波大学人間総合科学研究科教育学専攻修了

●学位

修士(教育学)筑波大学

●職歴

つくば開成国際高等学校柏分校非常勤講師

高見 悠佑

教育学習支援センター専任所員(講師)

●学歴

日本体育大学大学院教育学研究科実践教科
教育学専攻博士前期課程在学中

●学位

学士(スポーツ学)びわこ成蹊スポーツ大学

●職歴

横浜市立中川西小学校教諭

編集後記

●先日、近所の書店を訪ねてみると、「9月で閉店します」という張り紙を目にし、寂しさを感じた。ふらりと立ち寄った書店で、人生を変えてしまうような一冊の本と出会う経験は、書店という場でこそ、何事にも代えがたい経験であったのだなとしみじみ思う。

●本年で没後100年をむかえるチェコ出身の作家フランツ・カフカは、ある友人に宛てた手紙の中で、「本というのは、僕らの内なる凍った海に対する斧でなくてはならない」と語っている。言の葉が茂る社会において、私たちの心揺さぶる言葉に出会う場が失われてはいけない、大学は、そうした機会を提供する場であることを改めて実感した。本学が、学生のみならず地域の方たちの様々な言葉で溢れた場になるよう、

読者諸氏には、ぜひ本誌掲載の「Ryu Tube - 流通経済大学スポーツチャンネル-」を視聴し、そしてオープンキャンパスなどのイベントに足を運び、本学で活躍する学生たちの生の言葉に触れていただければ幸いです。

●さて本学は、本年度より新たに「Realize RKU Vision」という指針を掲げた。かつてアインシュタインは、あるエッセイの中で、「教育とは、学校で学んだことをすべて忘れたあとに残るもの」という言葉を残しているが、「すべて忘れたあとに残るもの」とは、まさに「Realize」=「気づく」「実感する」「実現する」力であろう。学生たちが、優れた斧を片手に、そうした力を養い成長していくことを切に願う。

流通経済大学

学報 **RKU Today** vol.46 2024年9月発行
編集・発行/学校法人日通学園 流通経済大学 広報室
千葉県松戸市新松戸 3-2-1 〒270-8555 khs@rku.ac.jp

RKU Todayの
バックナンバーは
こちら▶



UNIVERSITY
ACCREDITED
2022.4~2029.3